



## 増築工事で図書館はこう変わります

体育館新設とともに進んでいた図書館増築工事も、10月末で無事終わりました。増築後は座席数26席、ビデオ席は8席増えます。その他、閉架書庫（学生諸君は入れません）、大型本専用書架が設置されます。また、館内にトイレができますので、今までのように勉強中に館外に出なくてもよくなります。コピー機も館内に設置されます。（2ページ参照）

ただ書架等の設置は春休みに行なうしかないのでは、後期に再開してから使えるスペースが一時的に狭くなるなど、ご不便をおかけします。年度末には完成して、新学期からは、そのほかの改善も含めて次のようにいろいろの面で充実します。

### ソファで新聞や雑誌をどうぞ

増築後の雑誌コーナーにはソファを置く予定です。喫煙や飲食（チューインガムを含む）それにおしゃべりは困りますが、くつろいで読書を楽しんでいただけます。

### 気軽にレファレンス係へ

新閲覧スペースに近いところにレファレンス（参考）係のデスクを置いて、ユーザーの相談に応じて参ります。

### 新書・文庫を拡充しました

これまであまり購入しなかった文庫本は、第一歩として各学問分野の基本図書、伝記、

実録もの（ノンフィクションも含む）などの分野を中心にしました。文学書は今のところ、英米文学の作品が中心です。追い追い拡充していきますから、皆さんもリクエストを出してください。

### 雑誌は156タイトルになりました

新規購入は次の通りです。

- 和雑誌 -

- 「季刊アステイオン」「世界」「論座」
- 「Voice」「AERA」「西洋史学」
- 「現代思想」「アジア経済」「外交時報」
- 「外交フォーラム」「フォーサイト」
- 「セキュリティアン」「日本語学」
- 「ニュース・ファイル」「法学教室」
- 「教育委員会月報」「月刊日本語」
- 「日経ネットナビ」「ジュリスト」
- 「アメリカン・ブックジャム」
- 「国立歴史民俗博物館研究報告」

- 洋雑誌 -

Journal of Theological Studies; Asian Survey; Economist; Business Week; ELT Journal; ESP Journal; Ethics; Hume Studies; Journal of the History of Ideas; Literature & Theology .

<洋書>

Audra, E. ed.: The Twickenham Edition of the Poem of Alexander Pope, 1-11; Neft, N. ed.: Where Women Stand: An International Update on the Status of Women Worldwide; Parker, Peter: The Reader's Companion to the 20<sup>th</sup> Century Writers; Bluger, Marianne: Tamarack & Clearcut; White, Ray L.: Sherwood Anderson's Winesburg, Ohio with Variant Readings and Annotations; Bond, Donald F. ed.: The Tatler, 2, 3; Hunziker, Steven: Kakuei Tanaka; Hemingway, Ernest: The Short Stories.

他の図書館の図書も利用できます  
(相互利用制度)

本学図書館が、目的の図書および雑誌を所蔵していない場合は、他大学などの図書館を利用することができます。

新潟大学付属図書館：閲覧は自由にできます。図書を借りたいとき、又は文献複写をしたい時は、本学図書館を通して依頼することができます。(雑誌は複写のみです。)図書館に申し込み用紙がありますので、図書館職員に申し出てください。

その他の大学図書館：紹介状が必要ですので、図書館職員に申し出てください。紹介状の発行は、申し込んだ日の2日後です。

国立国会図書館：文献複写および図書借受けができます。図書館職員に申し出てください。

これらの手続きにかかる費用は利用者の負担になります。また、文献複写および図書の借受けには日数を要するので、それを

見込んで申し込んでください。

新潟県立図書館：昨年4月にオンラインで結ばれましたので、本学図書館で県立図書館の所蔵状況がわかります。目的の資料があるかどうかを調べたい時は、図書館職員に申し出てください。受付時間は 9:30~16:30 です。ただし、第3木曜日は利用できません。

### 後記

敬和学園大学図書館はなお充実の途上であり、蔵書数、施設など満足できる状態からはほど遠い。しかし一気に拡充できない以上、図書館の立場からの当面の課題は、現有のものをいかに活用するか、利用度の向上の問題である。人員体制が不十分であるにもかかわらず、「図書館だより」を思い立ったのはそのためである。来年度からのレファレンス係配置の試みも同様の理由による。

したがってこれはあくまで「準備1号」であって、定期化の見通しがあるわけではない。比較的手すきの時を見計らって、随時出して行くしかない。定期化の見通しが立った時が「準備」の2字が取れるときである。

短い書評とかエッセイも考えているが、本号には間に合わなかった。だいいち体裁もまだ固まっているわけではない。読者からのご意見を取り入れて改善を加えて行くつもりである。学生・教職員の皆さんからのご意見や投稿を歓迎する。

本号の準備に当たって何人かの教員の方々に協力や助言をいただいた。記して感謝する。(浅野)